

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 17

学校名・団体名	福島市立余目小学校
HPアドレス	https://fukushima.fcs.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	福島に育つ ～地域生産活動を通じた探究型放射線教育～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>2011年に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の影響は、今なお子どもたちの生活を大きく左右している。特に本校のある福島市北部の伝統産業である果樹栽培は、後継者不足から廃業に追い込まれる農家も少なくない。この福島で育つ子どもたちにとって、ふるさとの置かれている現状を的確に捉え、その上で、科学的な思考力をもって、将来の設計図を描くことが、希望を持って生き抜く力に通じると考える。</p>	

1 はじめに

○学校教育全体を通して、体験的な学習に力を入実施した。中でも、本計画の栽培活動は、地域の主産業であることから、地域住民も保護者も子どもたちが体験することによって「地域を知り、地域で生きる大人の思いを知る」ことができた。低学年から系統的に体験活動を取り入れた教育計画も作成し、授業を展開し、それと結びつけてモニタリングという避けては通れない問題にも向き合わせた。その経験をもとに、放射線への正しい知識と共に、福島に生きることに「夢と希望」が持て、放射線からさらに積極的に科学への興味関心が高まるように子どもたちの気付きや思考の流れを重視した学習を展開することができた。

4月：土作り、苗植え、田植え

5月：地域の方を講師に招いて、継続的な作物の世話

○総合的な学習で、放射線教育を単なる知識教育にとどめず、福島に生きることに誇りを持たせる教育にしたいとの思いからスタートした。廃業に追い込まれる農家がいる中、地域の産業を守って努力されている方々は、こうした学校の体験学習に大きな期待を寄せている。幸い地域の田んぼで田植えやサツマイモ植え・野菜栽培などの体験をすることができた。この体験から地域の産業に目が向くようになり、平成29年度末には、当初のねらいに迫る大きな成果を上げることが出来た。

6月：外部講師を招いて、栽培作物と「郷土の歴史」についてのTT授業

7月：収穫の準備およびモニタリングの知識を学習「モニタリング施設見学」

○科学的な思考力の育成を目指して「探究型の地域学習」を、全学年を対象にして実施した。地域の方々の全面的な協力によって体験学習の講師役を各農家の専門的な方々にもお願いすることもできた。農業体験のみならず、先人の知恵を学ぶ「地域の歴史学習」も効果をあげた。

また、「余目ならではの教育」をめざし、大学の先生方を招聘し、「科学への興味関心」を高める計画も進めるとともに、地域の方々の思いを受け、郷土に目を向ける学習をバックアップする「余目応援委員会」を活用し、地域との連携を深めることができた。

10月：収穫 地域の方々を招待して、収穫祭

11月：学習した内容を「学習発表会」で地域保護者に発信

12月～収穫しモニタリングをした作物の出荷体験

3月：個の学びの足跡をまとめると共に、関連教科への発展学習

○郷土の主産業が農業であること、郷土福島で農業を守るために懸命に働いている地域の皆さんの思いを、「体験・探究」を通して感じるため、県JA未来への見学や学習した内容を「学習発表会」で地域保護者に発信・地域の方々を招待しての収穫祭等を通して、ふるさとへの誇りを持たせることが出来た。そして、「放射線教育から発展し科学への興味関心につながる探究学習」へとつなげたことで、郷土福島の未来を切り開く力を持つ子どもたちを育成することができた。

2 おわりに▼

○身近な郷土の産業である「農業」体験を通した「探究型学習」を充実させ、自ら考え自ら判断する力を身に付けた子どもを育成することができた。また、放射線の影響から土に触れる活動から遠ざかっていた子どもたちであるが、この学習によって、実感を持って先人の知恵と努力を知ることができた。そして、ふるさと福島を誇りに思い、未来を切り開いて強く生きていく子どもを育成することができた。

最後になりましたが、本校の教育活動にご理解をいただき、教育助成をしていただきました「ちゅうでん教育財団」様に、感謝申し上げますとともに、貴財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。